

平成 17 年度市民活動支援センター事業報告（案）

1 事業の総括 平成 17 年度 総経費額 33,722,460 円

人々のライフスタイル、価値観が変容し、市民ニーズはますます多様化している。そうした状況の中、税源委譲を伴うとはいえ、地方分権が叫ばれ、自治体財政の状況もどんどん苦しくなっている。

質的にも量的にも、もはや行政サービスのみでは対応しきれない社会課題の解決にとりくむボランティア・NPO の活動の広がり、市民ひとりひとりが地域社会の一員として主体的にまちづくりに参加していくことが求められている。

今年度は2月にオープンした「調布市市民プラザあくるす市民活動支援センター」の認知度を高め、スペースや相談窓口、OA コーナーなどの機能の活用を促進すること、活動に参加するきっかけとなる講座や課題の提起、地域の人材育成、「顔が見える」関係づくり、などを中心とした事業展開を図った。

2 センターおよびランチの運営

総経費額 30,105,329 円

市補助金 自主財源・市委託金

1 市民活動支援センター運営委員会の開催

住民の主体的な活動を支援し、市民参画型のまちづくりを積極的に進めるため、毎月1回市民活動支援センター運営委員会を開催し、センター事業についての協議をおこなった。

市民活動支援センター運営委員会

任期：H17.1.25～H19.3.31 (敬称略・50音順)

氏名	主な活動、所属など
安部 宝根	特定非営利活動法人調布まちづくりの会
金子 日出澄	市民活動支援センター長
熊谷 紀良 (17年4月～)	東京ボランティア・市民活動センター
阪井 伸子	調布市地域福祉活動計画策定委員、ミニデイ活動ボランティア
坂間 元明 (委員長)	調布明るい社会づくりの会
佐藤 勇治	特定非営利活動法人全国教育ボランティアの会
島村 誠	調布市立第六中学校教育コーディネーター
杉山 典子 (副委員長)	あいさつ運動推進会、調布の自然学習ボランティア
洲崎 美千代	子育て関係
原島 敬之	調布市商工会
堀江 正憲	調布市生活文化部市民参加推進室生涯学習交流推進担当
増田 栄八郎 (17年11月～)	調布まちづくり市民フォーラム
山口 昌之 (副委員長)	調布市国際交流協会
若林 裕子	野ヶ谷の郷運営スタッフ
和田 敏明	ルーテル学院大学教授

平成17年度 市民活動支援センター運営委員会開催状況

第1回	4月13日	広報チラシの選定について、16年度事業報告・決算について、運営委員会の役割について、利用者会議の設置について、はばたき活用状況・事業実施状況報告
第2回	5月11日	16年度事業報告・決算(案)、ランチ運営助成要綱(案)、サポーター会員制度要綱(案)、運営委員会の役割について、折込チラシデザ

		インの選考結果について、調布ボランティアのつどい実施報告、運営委員会情報公開進捗状況報告、無線 LAN 設置、電話代行サービスの概要説明、はばたき活用状況・事業実施状況報告
第3回	6月22日	市民活動を広げるために(島村委員提案)、運営委員会の役割、プライベートステイトメントについて、はばたき活用状況・事業実施報告
第4回	8月10日	サポーター会員制度要綱の一部を改正する要綱(案)、第18期社会福祉協議会理事の推薦について、幅広い世代の市民活動参加に向けて市民活動支援センターはどう取り組むか?(島村委員提案より課題抽出)、はばたき活用状況・事業実施状況報告
第5回	9月12日	運営委員の増員について、市民活動支援センターのあり方、今後の方向性について、オープン1周年記念事業について、はばたき活用状況・事業実施状況報告
第6回	10月11日	オープン1周年記念事業「えんがわフェスティバル2006(仮称)」について、18年度市民活動支援センター委託事業費予算要求について、はばたき活用状況・事業実施状況報告
第7回	11月16日	平成18年度事業計画について、えんがわフェスタ2006について、はばたき活用状況・事業実施状況報告
第8回	12月7日	平成18年度事業計画について、えんがわフェスタ2006について、はばたき活用状況・事業実施状況報告
第9回	1月18日	平成18年度事業予算(案)について、えんがわフェスタ2006について、はばたき活用状況・事業実施状況報告
第10回	2月7日	えんがわフェスタ2006について(反省会)、はばたき活用状況・事業実施状況報告
第11回	3月3日	平成18年度事業計画・予算(案)、はばたき活用状況・事業実施状況報告

2 市民活動支援センター利用者会議の開催

2月より調布市市民プラザあくる市民活動支援センターがオープンし、利用者も徐々に増加してきた頃、新たに市民活動支援センター利用者会議を設置し、開催した。これは市民の声を直に聞く機会を設けるとともに、利用者間の横のつながりを活性化することを目的としている。

第1回 利用者会議

日 時	平成 17 年 6 月 24 日（金）午後 6 時 30 分～7 時 30 分
会 場	市民活動支援センター 活動スペースはばたき
参加者数	利用者 14 名、スタッフ 6 名、運営委員 2 名、指定管理 1 名、市 3 名
<p>1. プログラム 挨拶 自己紹介 センターに対する要望・疑問・提案 今後の予定</p> <p>2. 内容 サポーター制度に関するお知らせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集当初、ロッカー及びメールボックス利用を特典としていたが、調布市市民プラザあくる条例と照合し、ロッカー及びメールボックスは無料で貸し出すこととなった。 ・今回の件に限り、現時点でのサポーター会員のうちご希望の方にはサポーター会費を返却することが可能である。 <p>利用者からの要望・疑問・提案</p> <p>以下、利用者の質問とセンター長の回答である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンで画像処理を行う為、容量が大きいので CD を貸して欲しい。 現在、移動用の媒体を貸し出している。 ・センターは何を支援しているところなのか、明確ではない。 わかりやすくインフォメーションを行なうよう心がける。 ・センターでは何でもできるのか。どこまでできるかを明確にして欲しい。 活用ルールはあるが、範囲を狭めることはしていない。ボランティアや市民活動という枠にとらわれず、センターを利用される方の自己実現とともに交流を通して他への貢献が期待される。 ・団体の方々がどのような思いで、どのような活動を行なっているかを知りたい。 利用者会議の目的でもあるので、次回はそれについて時間を費やしたい。 	

第2回 利用者会議

日 時	平成 18 年 12 月 15 日（木）午後 6 時 30 分～7 時 30 分
会 場	市民活動支援センター 活動スペースはばたき
参加者数	利用者 10 名、スタッフ 5 名、運営委員 2 名、市 1 名
<p>1. プログラム 挨拶 自己紹介 情報交換、利用上のご意見、ご提案 えんがわフェスタ開催について</p> <p>2. 内容 利用上の意見、提案</p>	

以下、利用者とセンター長らの質疑応答の一部を抜粋した。

- ・初めてのひとはこのセンターへのアクセスやどういう事を行なっているか分からないという難点がある。また継続利用するには料金が高く、印刷室利用について時間制限があるなど問題だ。

市・生涯学習交流推進担当課長：あくろすは2階の「市民活動支援センター」があり、無料の活動スペースを設置し、3階には「男女共同参画推進センター」と「産業振興センター」とがあり、有料の会議室・研修室がある。2,3階とも市の施設だが、施設管理は指定管理業者、2階は社会福祉協議会が運営を受託している。

センター長：センターの表示や役割など明確にして皆さんの意見を運営に反映していきたい。

- ・ロッカーが狭いことと、貸出用パソコンのOSが古いのはどうにかならないのか。

ハード面については今のところどうにもなりません。

- ・50～100人レベルで利用できる施設が調布市にはない。

副センター長：利用者会議というどうしてもハード面(施設)の話になるが、人材発掘や運営資金の課題などをご提案いただけると良い。

- ・具体的にこのセンターではどのような機能があるのかをウェブサイトやセンターの入口に表示するなど工夫して欲しい。

利用者会議自体をQ&Aで終わらせるのではなく、交流の場にしていきたい。

えんがわフェスタ2006のお知らせ

- ・横のつながりを作る意味でも利用者・団体・地域の交流の場となることを考えている。

成果・反省点・課題

* 市民活動支援センターとしてはじめて取り組む利用者会議であったが、本来の目的の1つである利用者間の横のつながりを構築し、交流を活性化させることにはほとんど結びつかなかった上、第2回ではハード面での質疑が多く、進展が全くと言ってよいほど見受けられなかった。しかし、逆を言えば、それだけ市民にとって、施設面、内容共に見えにくい、わかりにくい施設なのかもしれない。今後はハード面を変えるには限界があるので、ソフト面でカバーすると共に、利用者会議の意義、持ち方を再確認し、本来の趣旨に沿った会にしていくことが課題である。

3 市民活動支援センターサポーター会員制度の設置

自立した市民社会の創造、住民参加型のまちづくりの実現を目指すセンターの方針に賛同し、センター運営を資金面から支えていただくサポーター会員制度を設置した。

サポーター会員数： 35 (内訳：29団体、6名)

活動分野：情報化、福祉(児童、障害児・者、高齢者)、生涯学習、リサイクル・環境、歴史・文化・芸術、子育て・教育、国際協力・交流、生活環境づくり、男女共同参画、心理など

4 市民活動支援センター1周年記念 市民交流事業の実施

えんがわフェスタ2006 ～人がえんがわでつながっていた時代～
市民活動支援センターのキャッチコピーは「まちのえんがわになりたい」。

そこから1周年記念のえんがわフェスタは、～人がえんがわでつながっていた時代～というサブテーマを設定した。

えんがわで人がつながり、わずらわしさ半分、ありがたさ半分の親密な近所付き合い、コミュニティが存在した昭和30年代。それから約40年たった今、人々のライフスタイルや価値観は大きく変化し、人や町のつながりは希薄になっている。

あの時代にもどることはないけれど、もういちど人とのふれあい、あたたかさや、コミュニティのあり方をみんなで考えてみたい、そのような思いから、フロア全体を昭和30年代のまちなみにつくりかえ、4畳間の縁側のある和室を製作。パネルディスカッション、講演などのプログラムを縁側でおこなったり、縁日や駄菓子屋などで親子が楽しめる空間づくりにもこだわった。

開催日：2月4日(土)～5日(日) 会場：調布市市民プラザあくろす2F はばたき他
来場者数：2日間 延べ人数 600名

プログラム

2月4日	9:30 18:00	はばたき 会議室1	縁台将棋選手権 昔懐かしい縁台で棋力に応じた3クラス別のトーナメント戦を行います。 A クラス優勝者は香川愛生女流アマ名人(調布市在住・小学生)と記念対局 中倉宏美女流初段による大盤解説もあり 参加費：500円 協力：調布市将棋連盟 参加者：39名
	10:00 12:00	はばたき	生きがい発見講座 あなたの DEBANDA ! 自分のこれまでの人生をふりかえり(人生のたなおろし)、自分のやりたいことを見つけるワークショップ。 協力：調布市社会福祉協議会第三次地域福祉活動計画推進委員会 参加者数：25名

	14:00 16:00	はばたき	インターナショナルフリーマーケット (NGOによるフェアトレード商品販売) 参加者:80名
期間中常設		はばたき	昔ながらの縁日 ポップコーン、かき氷、駄菓子、ベーゴマ、的当 など

えんがわフェスタ2006実行委員会

氏名	所属・主な活動団体
上田 英司	NICE(日本国際ワークキャンプセンター)
金子 日出澄	市民活動支援センター長・運営委員
坂井 伸子	市民活動支援センター運営委員
島村 誠	市民活動支援センター運営委員
鈴木 宗貴	社団法人調布青年会議所
堀江 正憲	市民活動支援センター運営委員 調布市生活文化部市民参加推進室
村上 剛明	調布市教育相談所

成果・反省点・課題

- * えんがわフェスタ2006実行委員会を設置し、運営委員、センター職員以外のメンバーの参加を得て企画・運営をおこなったことによりプログラムに幅をもたせることができた。
- * まずはじめに、全体の大テーマ、コンセプト、集客に結びつく仕掛けの工夫などが明確にできたこともあり、市民のみなさんに『伝えたいこと』がわかりやすいイベントになったと思う。
- * 会場設営をはじめ、各プログラムの実施にあたって多くの団体、個人の協力を得たことによりあらためてさまざまなつながりの重要性を感じる事ができた。
- * 昨年度の反省をふまえ、「市民のもとに確実にとどく広報を」とチラシのポスティング、学校や商店、自治会などでのポスター掲示や、プログラム別に別途チラシを作成しそれぞれのメインターゲットに個別送付するなどの工夫をした結果、どのプログラムもほぼ目標の参加人数を達成した。
- * テーマ性のある会場設営や縁日など、子どもと大人が楽しめる企画があったこともあり、これまで来館したことのない方々も多く訪れ、さらに認知度が高まった。
- * 個別のプログラムについて、「防災マップ」は参加者から「こういう企画を期待していた」「他の地域でもやってみたい」という声がきかれた。「インターナショナルフリーマーケット」については、出展した団体から、「同じテーマで活動する団体と出会う機会が少ないのでこういう機会をつくってくれたことに感謝します」との言葉をいただいた。どのプログラムについても、参加者の反応はよかったと思うが、いくつかのプログラムをのぞいてアンケートの回収がほとんどできずデータが集められなかった。このようなオープンスペースでおこなうプログラムのアンケート回収には工夫が必要であった。

5 「野ヶ谷の郷」

梅の湯商店会の空き店舗を利用して、平成16年11月1日にオープンした市民活動支援センター6番目のランチ。他のコーナーとは異なり、コーディネーターを配置せずに市民(野ヶ谷の郷運営委員会)が運営している。

(1) 概要

機能	ボランティアビューロー機能 貸スペース機能 福祉ショップ機能 地域活動拠点機能 活動発表ギャラリー
開設日	火・木・土 ボランティアスタッフが当番で開設
貸出日	月・水・金・日
スタッフ人数	24人(うち役員5人)

(2) 野ヶ谷の郷運営委員会役員 (敬称略・順不同)

井垣 裕子(副代表)	ミニデイ深大寺東町ひだまり代表
磯野 幸子	上ノ原地区青少年健全育成委員
百合田 紀恵子	ミニデイ深大寺東町ひだまりスタッフ
四家 綾子(代表)	社会福祉協議会事業部会、ひだまりサロン立ち上げスタッフ
若林 裕子	市民活動支援センター運営委員、ミニデイ国領ひだまりスタッフ

(3) 役員会

第1回	5月21日(土)	梅の湯商店街まつりへの参加について、ランチ運営助成金について、施設管理について
第2回	7月23日(土)	梅の湯商店街まつりについて、野ヶ谷の郷の運営について
第3回	9月17日(土)	開設1周年記念イベントについて
第4回	1月21日(土)	春休みイベントについて、来年度の運営助成金について
第5回	3月11日(土)	総会について、平成17年度事業報告・収支報告について、平成18年度事業計画・予算(案)について、ちょこっとお助け隊について

(4) 野ヶ谷の郷だより発行

野ヶ谷の郷や地域の情報を発信するため、「野ヶ谷の郷だより」を計6回発行して、周辺自治会(全戸)、民生児童委員、公共施設等に配布した。地域で活動している方や在宅介護支援センターはなみずきの職員にも記事を投稿していただき、内容の充実を図った。

5月号(2)	ボランティア入門講座紹介、自主サークル活動紹介
6月号(3)	ひだまりサロン紹介、自主サークル活動紹介
8月号(4)	野ヶ谷の郷紹介、梅の湯商店街まつり紹介
9月号(5)	9月の予定、梅の湯商店街まつり報告

10月号(6)	10月の予定、活動報告、地域の駐在さんの紹介、社協会員増強運動報告
2月号(7)	特集「安心して暮らせる地域をつくるために」、自主サークル活動紹介、今後の予定

(5) 自主サークル活動

貸スペースを利用したの、自主サークル活動は10団体(1団体休会)となっている。特別養護老人ホーム「調布八雲苑」入所者の逆ミニデイサービスでの利用等、地域の活動の拠点として、様々な人や団体が利用している。

団体名	活動内容	活動日時
パッチワークの会	パッチワーク	第4木曜10時～14時
絵を描こう会	絵画	第1・3土曜13時～15時
男性の料理教室	料理、会食	第2土曜10時～14時
囲碁同好会	囲碁	毎週金曜13時～17時
お茶を楽しもう会	お茶とおしゃべり	不定期
書道の会(休会中)	書道	第2・4金曜10時～12時
筆字会	書道、篆刻(てんこく)	第1・3水曜13時～17時 第2・4水曜15時～17時
東寿会麻雀同好会	麻雀	第1・3木曜13時～17時
調布八雲苑 逆ミニデイ	高齢者との会食等	第2・4水曜 10時30分～14時30分
テーブルお点前	お茶会	第4木曜14時～16時

(6) ボランティア入門講座「はじめの一步」

野ヶ谷の郷ボランティアスタッフを対象に、ボランティア・市民活動の入門講座を開催した。

開催日時	6月26日(日)午前10時～12時
会場	野ヶ谷の郷
内容	「ボランティアってなんだろう?」、「こんな野ヶ谷の郷にしたい」
講師	熊谷 紀良 氏(東京ボランティア・市民活動センター、市民活動支援センター運営委員)
参加者	9人

(7) 梅の湯商店街まつり「大納涼祭」

梅の湯商店会会員として、商店街まつりに参加した。

開催日時	8月29日(月)午後4時～18時30分
会場	「梅の湯」駐車場

参加内容	野ヶ谷の郷の開放、名前入りの風船の配布、模擬店手伝い
------	----------------------------

(8) 1周年記念交流会

野ヶ谷の郷開設1周年を記念して、ボランティアスタッフ、商店会、在宅介護支援センター等、これまで野ヶ谷の郷に携わった方々の交流会を行った。

開催日時	11月3日(木)午前11時～午後1時
会場	野ヶ谷の郷
内容	1年間の報告、交流会
報告書	「1年間の歩み」 100部作成
来場者	30人

(9) 春休みイベント

子どもから高齢者までが楽しみながら交流するイベントとして、ヴァイオリン独奏コンサートを開催した。

開催日時	3月28日(火)午前10時30分～12時
会場	野ヶ谷の郷
演奏者	蛭川(にながわ)いづみ 氏
来場者	45人

(10) 野ヶ谷の郷ちょこっとお助け隊

再掲

(11) 地域情報誌「多摩ら・び」掲載

地域情報誌「多摩ら・び」内のシリーズ「多摩のボランティア」の取材を受け、12月号に掲載された。

成果・反省点・課題

- * 開設から1年が過ぎ、当初は少なかった地域在住のボランティアの数も増えた。
- * 野ヶ谷の郷だよりを定期的に発行して、自治会全戸に配布することで、地域住民の認知度も上がってきている。課題として、自治会に入っていない方への周知方法がある。
- * 現在のところ、シニア中心の利用になっている。地域の様々な方が集い、交流できる場として、子どもや子育て中の親等、新しい層にどのように周知して、来てもらうかが課題。
- * 野ヶ谷の郷ちょこっとお助け隊の立ち上げ等、地域の課題を考える市民の拠点として活用されている。
- * 市民による自主的な運営を行っているランチに対しての、市民活動支援センターとしての関わり方を再確認する必要がある。

3 情報・資料の収集および提供

総経費額 1,455,452 円

市補助金 自主財源・市委託金

1 えんがわだよりの発行

ボランティア・市民活動情報を提供するため、毎月発行。隔月にタウン誌折込をおこなうなど配布先拡大、市民の手にわたる配布方法を工夫した。

発行目的	市民活動支援センターの活動報告、ボランティア募集等を含めた内容で、センターを多くの方々に知ってもらい、利用していただくこと、また市民活動を促進し市民主体の支えあうまちづくりをすすめていけるよう課題を提起することを目的としている。
発行日	毎月15日発行
発行部数	奇数月 3,500部(タウン誌182へ2,000部折り込み 菊野台地区) 偶数月 1,500部
配布先	市内公共施設(地域福祉センター、図書館、児童館、青少年ステーション CAPS、公民館、体育館、小学校、中学校、高校、大学、男女共同参画推進センター、子ども家庭支援センターすこやか、郵便局、京王線駅頭) 市民活動支援センターサポーター 東京ボランティア・市民活動センターほか都内ボランティア・市民活動センター
内容	特集記事(課題提起やまちの話題紹介など) ボランティア募集 市民活動支援センターの活動報告やお知らせ 地域の市民活動情報、助成金情報など

成果・反省点・課題

- * 毎月の定期的な発行は達成できたが、内容の充実、配布先の見直しなど広報誌としての役割や効果を検討していきたい。

2 市民活動支援センターホームページ開設

市民活動支援センター開設に伴い、センターのホームページを開設した。高齢者の社会参加のしくみづくり事業(調布市高齢福祉課委託事業)で作成した「chofu-with」、市内のNPO法人ちょうふどっとこむなどのサイトと情報共有を図り、現在約200の団体登録がある。調布市生活文化部とも連携をとり、情報提供を行っている。

市民活動団体の情報の受発信(イベント予定や内容の報告、新規メンバー、ボランティア・参加者募集など)を支援すると同時に、より多くの市民が市民活動に関わるきっかけを得る媒体のひとつとして情報の基盤整備、ページの見易さ、使いやすさを工夫するなど随時充実を図っている。

また、さまざまなネットワーク間、団体間の情報共有、センター及びコーナーの事業予定や内容の報告等に関する情報提供にも力を入れている。

今年度は市民団体向けIT講座を通しての団体の活用度の向上や調布市立図書館の市民の手によるまちの情報発信事業に協力するなどしてセンターホームページの活用のきっかけ作りを行った。

ホームページ開設から3月末まで、約35,000件のアクセスがあった。

3 市民活動支援センター(国領)資料コーナーの充実

ボランティアやNPO活動関連だけでなく幅広い分野のチラシやポスターを配架掲示して、イベントや講座の開催、ボランティア募集等の多くの情報を提供した。また、調布市のみならず、都内で市民活動の拠点となっているセンターや施設のニュースレターを閲覧と保存のためファイルしている。

平成 17 年 4 月～18 年 3 月に受入れたチラシ等の内訳

内 容	講座・講演	895 件	分 野	高齢者・子ども	464 件
	イベント	676		ボランティア全般	446
	団体・活動紹介	519		障害児・障害者	350
	ボランティア募集	292		地域・まちづくり	301
	助成金	158		文化・芸術・スポーツ	282
	その他	636		環境保護	157
	計	3,176 件		その他	791
体 裁	チラシ	755	計	2,791 件	
	ニュースレター	620			
	ポスター	248			
	パンフレット他	250			
	計	1,873 部			

主要雑誌 7 タイトルを定期購読

誌名	出版社	刊行頻度
ネットワーク	東京ボランティア・市民活動センター	隔月刊
ウオロ	大阪ボランティア協会	年 10 回
NPO マネジメント	II HOE (人と組織と地球のための国際研究所)	隔月刊
ボランティア	富士福祉事業団	毎月
C's ニュースレター	市民活動を支える制度をつくる会 C's	隔月刊
NPO のひろば	日本 NPO センター	季刊

閲覧用図書・報告書類の充実

市民活動関連図書 152 タイトル (*内容は<参考資料>を参照)

野遊び関連図書 32 タイトル (*内容は<参考資料>を参照)

成果・反省点・課題

* 来館者のどれ位の方々がコーナーの情報を活用されたのか追跡できないため、残念ながら情報をただ一方的に提供している感がある。「何か NPO についての本を読んでみよう」とか「こんな活動仲間がいたらなあ」「来月どんなイベントがあるのかな」と思ったときに、ホームページや図書館でなく、すぐ思い出していただけるようなコーナーを作る工夫をしたい。

- * 膨大な枚数のチラシを、いかに多くの人に手にとってもらえるか、置き場所や配架方法を工夫する必要がある。
- * <NPO><福祉><まちづくり>など、閲覧用の図書やニュースレターファイルを早急に分類し、利用しやすくする。

4 ふくしの窓3 - 4面「市民活動支援センターだより」の充実

隔月発行（新聞折込）のふくしの窓の3 - 4面を「市民活動支援センターだより」全面に載せ、ボリューム、内容ともに充実を図った。

5 多様なメディア(媒体)を活用した情報提供

J - COM 株式会社 (CATV)、調布 FM 株式会社、タウン誌 (182チャンネル)、地域ポータルサイト (ちょうふどっとこむ) 各社のご協力を得て、多角的な情報提供に取り組んだ。

6 市民活動支援センター紹介チラシの作成

市民活動支援センターをわかりやすく紹介し、来場者、活用率を高めるため作成。
B4 両面 フルカラー 50,000部
うち、約23,000部を読売新聞朝刊に折込、配布した。(調布・狛江地区の一部)
協力: 有限会社 田仲新聞舗

7 市民活動・生涯学習団体ガイドブックの作成

調布市生涯学習情報コーナーと協力し、市内の市民活動団体(NPO 法人含む)、生涯学習サークルの紹介冊子を作成した。

8 第25回調布ボランティアのつどい

調布市を中心に活動するボランティア・市民活動団体が、活動の展示・体験、発表、模擬店、バザー等を通して広く市民に活動への参加を呼びかけた。

開催日時	平成17年4月17日(日) 午前9時45分～午後3時
会場	調布市市庁舎前庭
主催	調布市社会福祉協議会 第25回調布ボランティアのつどい実行委員会
内容	活動発表・展示、活動の体験・実演、模擬店、バザーなど

(1) 参加団体 28団体

No	団体名	内容
1	障害を負う人々・子ども達と「共に歩む」ネットワーク	活動紹介・展示、販売
2	調布災害時ボランティアコーディネーターの会	体験、炊き出し
3	布田かいわい	昔の遊び体験
4	フィリピンの就学児に学用品・衣類をとどけるスタディーツアー	模擬店、フリーマーケット、活動紹介・展示
5	たんぼぼネットワーク	模擬店、紙芝居
6	かかしの会	体験
7	手話サークル「調布の会」	発表「手話コーラス」
8	リン・MCグループ	模擬店、活動紹介・展示、体験、相談
9	わりばしりサイクルグループ「くるりん」	活動紹介・展示、フリーマーケット、わりばし回収
10	ブレースの会	フリーマーケット
11	なごみ茶屋	フリーマーケット
12	調布明るい社会づくりの会	フリーマーケット
13	高次脳機能障害者のつどい「調布ドリーム」	活動紹介・展示、フリーマーケット、発表「トーンチャイム」
14	パッチワークグループ ログキャビン	活動紹介、フリーマーケット
15	スペース・クッション	フリーマーケット
16	調布W A T	フリーマーケット
17	あむあむサークル	活動紹介・展示、フリーマーケット
18	ゆうあいフォークダンス友の会	模擬店、フリーマーケット
19	菊野台点字サークル	点字体験
20	手話サークル くすの木	手話通訳、手話体験

21	ひまわりグループ	フリーマーケット
22	調布の自然学習ボランティア	活動紹介、フリーマーケット
23	調布市社会福祉協議会 自主バザーグループ	フリーマーケット
24	調布ボランティア連絡会	活動紹介・展示、体験
25	バリアフリー映画鑑賞推進団体 City Lights	活動紹介、体験、販売
26	神中PTAボランティアサークル	活動紹介・展示、フリーマーケット
27	市民活動支援センター	活動紹介・展示、模擬店、ボランティア相談
28	調布市ハンディキャブ運営協議会	模擬店

(2) 実行委員会の開催状況

回数	開催期日	開催場所	内容
第1回	平成16年度 1月17日	総合福祉センター 201・202会議室	調布ボランティア連絡会臨時会を開催して、ボランティアのつどい実行委員会立ち上げを決定
第2回	2月21日	総合福祉センター 201・202会議室	参加団体確認、広報について
第3回	3月14日	総合福祉センター 201・202会議室	必要備品について、サポートボランティアについて
第4回	平成17年度 4月11日	総合福祉センター 201・202会議室	備品及び搬入・搬出の確認、当日パンフレットについて、音響について
反省会	4月18日	総合福祉センター 201・202会議室	反省・感想・報告会

成果・反省点・課題

- * 参加全団体による実行委員会を立ち上げ、主体的な企画・運営を行っているが、一部の実行委員に負担がかかってしまっている。
- * 会場が調布駅南口広場から調布市市庁舎前庭に変わってから、初めての開催であった。調布駅南口広場とは違い、人の流れも少ない中で、いかに来場していただけるまつりにするかが今後の課題。

9 第13回菊野台ボランティアまつり

開催目的	菊野台地区で活動しているボランティアグループ、およびボランティア活動に関心がある人が一堂に会し、日頃の活動を紹介するとともに、相互交流をはかり、ボランティア活動に関する情報提供、および地域の人々への啓発を目的として行う。
日時	平成16年6月6日(日)午前10時～午後3時
内容	ボランティアグループの紹介(点字・手話体験コーナー折り紙、模擬店、ミニバザー、外国人による日本語スピーチ)、情報交換、交流、啓発
会場	菊野台地域福祉センター
参加者数	参加団体21団体 来場者200名
運営	菊野台ボランティアまつり実行委員会

10 菊野台地域福祉センターコミュニティ祭への参加

事業内容	地域福祉センターを定期的に利用している団体が年に1回一堂に会して交流し、活動発表を行う場として、財団法人コミュニティ振興財団主催により開催。
開催日時	平成17年10月29日(土)、30日(日) 午前10時～午後4時
会場	菊野台地域福祉センター
参加内容	コーナーの紹介、交流、リサイクルバザー、相談コーナー

11 平成17年度富士見ふれあいのつどい(小地域交流事業を兼ねる) 再掲

開催目的	地域にある福祉団体や施設、学校、ボランティア団体が実行委員として参加し、企画・運営にかかわり交流を図りながら、ともに地域福祉の向上を図ることを目的としている。
日時	平成17年6月18日(土)午前10時～午後3時
会場	富士見地域福祉センター
内容	舞台発表、模擬店、自主製品展示・販売、各種相談コーナー、工作コーナー、参加型イベント
参加者数	参加団体30団体、個人2名、来場者380名
運営	富士見小地域交流実行委員会

12 「うたごえ喫茶 IN 富士見」(平成17年度小地域交流事業) 再掲

開催目的	定期的に、老若男女問わず懐かしい唄を声を上げて歌うことで楽しみながら元気になれる場づくり。		
日 時	平成17年 4月23日 平成17年 5月28日 平成17年 7月16日 平成17年 8月27日 平成17年 9月17日 平成17年 10月 8日	平成17年 11月26日 平成17年 12月24日 平成18年 1月21日 平成18年 2月18日 平成18年 3月18日	クリスマス交流会 いずれも土曜日午後1時半～4時
会 場	富士見地域福祉センター大集会室		
演 奏	ピアノ伴奏 佐伯恵美氏	参加費	300円(飲み物つき)
参加者数	延べ332人(各回平均 30人) 特別養護老人ホーム八雲苑の逆デイとして施設入所者(高齢者)の参加あり。		
運 営	富士見小地域交流実行委員会		

13 「富士見ボランティア交流会」(平成17年度小地域交流事業) 再掲

日 時	平成18年2月25日(土)午後12時半～午後3時半
会 場	富士見地域福祉センター大集会室
内 容	富士見コーナーを拠点に活動している団体や施設との情報交換と交流
参加者	42人(スタッフ 6人)
予 算	小地域交流事業費(手作り豚汁・手作りサラダ)
運 営	富士見コーナー年間事業推進委員(世話人会)

14 第8回ボランティアまつり染地

開催目的	地域で活動するボランティア・市民活動団体、当事者団体、施設、地域のミニデイ・サロン、学校などが交流し、地域のボランティアの輪を広げる
開催日時	平成17年5月22日(日)午前10時～午後3時
会 場	染地地域福祉センター
内 容	活動紹介、交流、情報交換、模擬店、作品展示販売、バザー、相談コーナー
参加者数	参加団体29団体 来場者300人

15 染地地域福祉センターコミュニティ祭への参加

事業内容	地域福祉センターを定期的に利用している団体が年に1回一堂に会して交流し、活動発表を行う場として、財団法人コミュニティ振興財団主催により開催。
開催日時	平成17年11月5日(土)、6日(日) 午前10時～午後4時
会 場	染地地域福祉センター
参加内容	コーナーの紹介、交流、リサイクルバザー、相談コーナー

16 緑ヶ丘・仙川ふれ愛のつどい(第5回緑ヶ丘ボランティアまつり) 再掲

開催目的	ボランティアまつりと小地域交流事業を同時開催することによって地域の福祉施設、学校、児童健全育成団体、自治会、老人クラブ等と農協、建設労組、まちづくりの協議会など多種多様なボランティア・市民活動団体が出会い、交流を行いながら地域福祉の向上をはかることを目的に開催。子どもとの交流を願い、児童館まつりと同日開催で実施。
日時	平成17年10月16日(日) 午前9時50分～午後3時30分
会場	緑ヶ丘地域福祉センター
内容	活動紹介・発表、模擬店、手作り品販売、体験コーナー、ボランティア団体による手話朗読・合唱・等、高齢者給食、ふれあい給食の方々のコーラス・踊り、白百合女子大学生による人形劇、中・高生の和太鼓、緑ヶ丘小学校児童のナンチューソーラン、子ども達のダンス、フラダンス、日本舞踊、老人クラブによる緑樹サンバ等
参加者数	参加団体31団体、来場者395人

17 緑ヶ丘地域福祉センターコミュニティ祭への参加

事業内容	地域福祉センターを定期的にご利用している団体が年に1回一堂に会して交流し、活動発表を行う場として、財団法人コミュニティ振興財団主催により開催。
開催日時	平成17年10月29日(土)、30日(日) 午前10時～午後4時
会場	染地地域福祉センター
参加内容	コーナーの紹介、交流、リサイクルバザー、相談コーナー

18 和の心、笑いのこころ ～キャンドルの灯りとともに～

開催目的	「100万人のキャンドルナイト」プロジェクトに参加することで、環境への配慮を考えるきっかけ作りを行なう。 日本の伝統芸能である落語の造詣を深めるとともに、手話という非言語的コミュニケーションで観る機会を提供する。 大いに「笑い」、癒しを感じられる場、また、自己を表現する場を提供する。
開催日時	平成17年12月17日(土)午後7時～午後9時30分
会場	国領神社(調布市国領町1-7-1)
参加費	3,500円(ミツロウローソク、特製手づくりおにぎり付き)
内容	暗闇ライブ ～詩と仮面踊り～ 詩人53とアトリエ MARIKO のコラボレーション 手話落語 古今亭 菊千代 氏(噺家) スペシャル対談 テーマ「6つのSのある暮らしについて」 ゲスト: 辻 信一 氏(環境=文化 NGO ナマケモノ倶楽部世話人ほか) 古今亭 菊千代 氏 6つのS = Slow, Small, Simple, Sustainability, Sincere, Smile 「ゆっくり、ちいさな、シンプルな、持続可能な、真心のある、笑顔で」

参加者数	参加者17名、ゲスト3名、スタッフ8名
主 催	社会福祉法人調布市社会福祉協議会 市民活動支援センター

成果・反省点・課題

- * 「スローライフ」、「LOHAS(Lifestyles of Health And Sustainability の略)」といった癒しを多く求める世の中の声に応えるべく、また、あたらしいライフスタイル、生活課題を提案することを目的として本企画を実施した。やはりニーズは高く、参加者からは次回を求める要望が多かった。
- * しかし、当初予算に計上していなく、単発のイベントのため、参加費の設定を高くしてしまったことで、30名定員のところ、17名しか参加者が集まらなかった。また、今回、申込期間を設定したのだが、期間が過ぎた後の申込者が多く、今後の課題となった。
- * 新たな試みとして開催されたこのイベントであるが、この趣旨に賛同した方が飛び入りで舞台上がってくださるなど、また1つ新たな和をつなぐことができたように思う。

4 ボランティア・NPO・市民活動団体、個人の活動支援

総経費額 236,845 円

市補助金 自主財源・市委託金

1 スペース・設備の貸出し

市民活動団体の会議、作業、打ち合わせなどさまざまな目的に応じてスペースを貸出し、その運営管理を行った。

市民活動支援センター(国領)来館者およびはばたき利用状況

来館者数推移

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
来館者数	1,324 人	1,670 人	1,803 人	2,287 人	1,946 人	2,090 人
一日平均	45.7 人	55.7 人	62.2 人	76.2 人	64.9 人	72.0 人
前月比	110%	126%	108%	127%	85%	107%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来館者数	2,345 人	2,240 人	1,797 人	1,419 人	2,808 人	2,291 人
一日平均	78.2 人	77.2 人	66.6 人	52.6 人	104 人	76.4 人
前月比	112%	96%	80%	79%	198%	82%

活動スペースはばたき・OA コーナー稼働率

100 席×3 回転 / 日×30 日 = 9000 人 / 月

この数値を稼働率 100%とする。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率	6.2%	10.7%	13.6%	18.1%	14.8%	16.7%
月間利用者数	561 人	960 人	1,220 人	1,632 人	1,328 人	1,501 人
一日平均	19.3 人	32.0 人	42.1 人	54.4 人	44.3 人	51.8 人
前月比	216%	171%	127%	134%	81%	113%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率	15.6%	17.4%	15.2%	14.3%	19.3%	19.5%
月間利用者数	1,402 人	1,562 人	1,369 人	1,284 人	1,739 人	1,759 人
一日平均	46.7 人	53.9 人	50.7 人	47.6 人	64.4 人	58.6 人
前月比	93%	111%	88%	94%	135%	101%

年間来館者・利用者数総計と利用内訳

【総数】

来館者数	24,020 名
利用者数	16,317 名
相談件数	290 件

【利用内訳】

活動	1,080 件
会議、打ち合わせ	547 件
パソコン利用	2,337 件
学習	567 件
その他	534 件
展示	21 件
合 計	5,086 件

ランチ活用状況

拠 点	スペースの活用状況		来所者数	
	件 数	一日平均	人数	一日平均
小島町コーナー	748 件	2.9 件	6,420 人	19.0 人
菊野台コーナー	809 件	6.2 件	1,675 人	12.8 人
富士見コーナー	262 件	2 件	2,072 人	15 人
染地コーナー	437 件	3.3 件	3,156 人	22.8 人
緑ヶ丘コーナー	256 件	1.7 件	2,486 人	17.2 人
合 計	2,802 件	3.6 件	18,386 人	21.3 人

メールボックス、ロッカーの貸し出し（国領）

活動室内に設置されているロッカーおよびメールボックスを希望する市民活動団体に貸出し、その運営管理を行った。

メールボックス利用件数	41 件
ロッカー利用件数	30 件

2 ボランティア保険・行事保険の加入受け付け

ボランティア保険への加入促進の呼びかけと加入手続きの事務を取り扱った。

ボランティア保険加入者数(通年保険・受付随時)		2,471 人	
行事保険加入件数	A型(日帰り行事)	1,151 件	25,667 人
	B型(宿泊行事)	11 件	247 人

3 無線 LAN スポット運営(小島町)

16年度よりセンターの利用価値向上、情報分野からの市民活動支援を目的として無線 LAN のポイントを調布市総合福祉センター 2階フロアに設置。これにより活動室、会議室、交流スペースなど 2階一帯において、各自持ち込みのパソコンでインターネット接続が可能になっている。

サービス名：Free Spot (フリースポット協議会提供・バッファロー株式会社)

方式：IEEE802.11b

利用方法：窓口で利用規約および利用登録申請書入手。(あるいはホームページよりダウンロード)規約に同意し、申請書に必要事項を記入して提出。ESSID(SSID)と暗号化キー(WEP)を受け取り、利用マニュアルを参照して各自持ち込みのパソコンに設定して利用する。

成果・反省点・課題

- * 利用登録者数 20 名。個人利用のほか、会議室等利用者でパソコン講座実施に際して利用するなど、前年度からひきつづく利用状況。
- * フリースポットを設置しているという情報が広まった上、調布駅前に位置する利便性から市民活動とは無関係の人たちの利用が目立つようになってきている。特に、ロビー(カウンター前スペース)で長時間利用するケースも多く、時に相談対応に支障をきたす場合も見受けられる点は、検討を要する。

4 無線 LAN スポットの設置・運営(国領)

センターの利用価値向上、情報分野からの市民活動支援を目的として無線 LAN のポイントを市民活動支援センター活動スペースはばたきに設置。これによりセンター内 O A コーナーだけでなく、市から貸与されたノートパソコン及び、各自持ち込みのパソコンでインターネット接続が可能になった。

サービス名：Free Spot (フリースポット協議会提供・バッファロー株式会社)

方式：IEEE802.11b

利用方法：窓口で申請書に必要事項を記入して提出。ESSID(SSID)と暗号化キー(WEP)を受け取り、貸し出し用パソコンまたは各自持ち込みのパソコンに設定して利用する。

成果・反省点・課題

- * 利用者数約 30 名。個人で利用される方が多いが、市民団体として情報収集やホームページ更新のために利用するなど、団体利用も数件見られる。

- * 当初心配したセキュリティの問題、医療機器への影響、センターの利用目的から大きく外れるような使用などの問題もなくスムーズに運営されている。
- * ウイルス対策ソフトなど、運用するに当たり年度ごとに必要となる予算を予測しながら、絶えず一定のサービスを提供できるよう、継続していくことが課題である。

5 電話対応代行サービス(国領・有料サービス)

16年度の施行期間を経て、新規事業として市民活動団体の電話対応代行サービスを実施した。

利用料金	1,000円/月
利用団体数	平均月3団体(通年利用2団体、そのほかスポットで数団体)
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体の活動に関する問合せ応答代行 ・ 行事、講座などへの参加申込受付代行

成果・反省点・課題

- * 当初の予定より利用件数が伸びなかった。この原因のひとつにはPR不足も考えられるため、18年度はサービスの周知、利用契約促進に努めたい。

6 市民団体向けIT講座

ボランティア・市民活動団体に所属する市民を対象とし、インターネットの基本操作を通じた安全・効率的な情報の受発信と市民活動支援センターのホームページの登録団体増加・活用度の向上を目的として、市内のボランティアネットワーク「やあやあネット」主催の市民団体向けIT講座に調布市とともに共催した。

期	開催日	参加者数	スタッフ (やあやあネット)
第1期(全5回) 18:30-20:30	平成17年 7/13,20,27,8/03,10	8人	7人
	会場:活動スペースはばたき		
第2期(全5回) 18:30-20:30	平成17年 8/30,9/06,13,21,27	3人	3人
	会場:活動スペースはばたき		
第3期(全5回) 18:30-20:30	平成17年 10/05,12,19,26,11/02	7人	5人
	会場:活動スペースはばたき		
第4期(全5回) 18:30-20:30	平成18年 1/24,31,2/07,14,21	6人	3人
	会場:活動スペースはばたき		
復習サロン 16:00-18:00	平成18年 3/08,15,22,29	平均5人	3人
	会場:活動スペースはばたき		

成果・反省点・課題

- * 活動の紹介や新規メンバーへ勧誘のために市民活動支援センターのホームページを活用することができるということを認識してもらうと同時に、講座に参加した団体同士での交流が生まれた。
- * ホームページの活用方法だけでなく、ワープロソフトや表計算ソフトなど事務役に役立つIT講座も

希望があったため、来年度で対応したい。

- * 昨年まで下石原地域福祉センターのボランティア室で開催していた講座を市民活動支援センターで行うことにより、今までの参加者である市民活動を行う市民を複数センターへ誘導することが出来た。

7 NPO法人設立・運営に関する講座

社会課題の解決に取り組むべく、組織的に活動する NPO 団体の活動を支援し、あたらしい活動、あたらしい団体の誕生を支援することを目的として NPO 会計講座、NPO 法人設立講座を実施した。

NPO 会計講座 家計簿の知識でできる！NPO 会計の初歩

第1回	日 時	1月14日(土)午後2時30分～午後4時30分		
	会 場	市民プラザあくろす会議室1	参加人数	15名
	内 容	テキストを使用した講義(NPO 団体に必要な会計書類、作成の注意点、会計の基礎)		
第2回	日 時	1月21日(土)午後2時30分～午後4時30分		
	会 場	市民プラザあくろす会議室1	参加人数	11名
	内 容	前半は講義、後半は個別相談会		
講 師	NPO 支援会議東京 脇坂誠也税理士			
費 用	全2回 3,000円			

NPO 法人設立・入門講座

日 時	3月18日(土)午後2時～4時	費 用	500円(資料代)
会 場	市民プラザあくろす会議室1	参加人数	27名
講 師	NPO 人材開発機構、ナレッジバンク相談員 佐藤紳嗣氏		
内 容	NPOとは? NPOとボランティア NPOとNPO法人 法人設立の要件 認証までの流れ 申請書類の説明		

成果・反省点・課題

- * 12月～3月まで連続で実施した NPO マネジメント講座に比べ、市報等での広報に対する反応も早く、大きかった。NPO 法人設立に関する関心や意欲の高さ、あるいは会計知識など具体的、実務的な課題を抱えている団体が多いということがうかがえる。
- * 終了後のアンケートをみても、会計講座などは中級、上級などさらにレベルアップした講座の開催を希望する、という声が多くあった。今回依頼した NPO 支援会議東京の会計講座は、2回目の後半に3～4名の税理士が個別相談に応じるコーナーがあったり、講座を受けた受講者同士(他地域での受講者も含む)のメーリングリストがあったり、フォローアップがあるという点も評価が高かった。
- * 会計講座、設立講座に加え、法律、労務など組織運営において欠かせない課題についてもニーズが予想されるので、18年度は定期的にこのような NPO に関する専門講座・相談会を実施していきたい。

5 ボランティア・NPO・市民活動団体、企業や行政との協働

総経費額 343,540 円

市補助金 自主財源

1 専門家による高齢者・障害者世帯の無料家具転倒防止工事の受付

災害時の家具転倒対策が自力では難しい高齢者・障害者世帯を対象に、建築職人の組合「東京土建」と「建設ユニオン」が無料で実施する、家具転倒防止工事の広報と受付を行った。

実施日時	9月25日(日)午前10時～12時
対象者	市内在住の高齢者(65歳以上)・障害者のみの世帯
内容	一室分の家具の転倒防止金具の取り付け作業
工事件数	18件
料金	一部屋に限り無料
広報	9月1日号ふくしの窓、9月5日号調布市報にて広報
主催	東京土建一般労働組合調布支部・首都圏建設産業ユニオン調布支部

成果・反省点・課題

- * 阪神・淡路大震災では、犠牲者の80%以上が家具による圧死との事例があり、家具転倒防止工事は有効な防災手段となっている。しかし、高齢者や障害者のみの世帯では対策をとることが難しいため、そうした方々を対象に、工事を無料で行っていることは非常に有意義なことだと思われる。
- * 前年度に新潟県中越地震が発生したこともあり、申込みが殺到することを予想していたが、それほど多くはなかった。この事業があまり知られていないことが考えられるので、高齢者や障害者のみの世帯にどのように情報を届けるかが課題。

2 調布市総合防災訓練への参加

近年頻発する自然災害。いざというときの対応に備えるシュミレーションとして、調布市が実施する調布市総合防災訓練に初めて参加した。災害時のボランティア受付、ニーズ調査等を想定した訓練を行った。

実施日時	8月27日(土)午前8時30分～11時30分
会場	調布市立第五中学校
参加内容	災害ボランティアの受入れ及びコーディネート訓練、救援物資配布訓練、避難住民要望調査
受付ボランティア数	5人
避難住民要望調査人数	167人(調査結果を防災安全課へ報告)
協力	調布災害時ボランティアコーディネーターの会

成果・反省点・課題

- * 大規模災害時に社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを設置することを想定して参加したが、受付けたボランティアの人数も少なく、実際の災害時に対応した訓練まではいかなかった。
- * 様々な関係機関が参加していたが、連携ができなかった。今後の課題として、大規模災害に対応できるように、平常時から他機関と「顔の見える関係」づくりを進める必要がある。

3 やあやあドリームオールスターズへの実施協力

学校と地域の連携を深め、「地域で子どもを育もう」という視点で、市民活動団体が中心となって実行委員会を立ち上げ開催したイベントに共催した。

市民活動団体や個人が、体験型・参加型のさまざまなブースを設け、親子や友達同士また地域の人たちとふれあいながらいろいろな気づきを得られることを目的として実施。

日時	平成 17 年 11 月 5 日(土)午前10時～午後3時
会場	調布市立富士見台小学校
主催	やあやあドリームオールスターズ 2005 実行委員会
共催	やあやあネットワーク・社会福祉法人調布市社会福祉協議会・武蔵府中法人会
協賛	調布市・調布市立富士見台小学校
後援	調布市教育委員会・社団法人調布青年会議所

参加団体一覧

参加内容	団体名
野遊び体験	野遊びくらぶ
枯葉でアートしよう アートなクリスマスツリー	調布美術研究所、まめちょ合同
ラムネ作り、紙ヒコーキ、 天文教室	NPO 法人全国教育ボランティアの会
割り箸リサイクル作品 活動展示	わりばしリサイクルグループ くるりん
折り紙博士	菊池豊彦氏、伊藤宏氏ら
さあ、手話で話してみよう！ (及び全体手話通訳)	手話サークルくすの木
スーパー紙トンボを作って 飛ばそう	鎌形武久氏
スポーツ「サンボ」体験会	三多摩サンボスクール
点字体験	菊野台点字サークル
サッカーボールでチャレンジ！	地域と共いの「FC 東京」
ギター教室	アンプラグド
木島平って知ってる？ 、 信州名物おやき販売	木島平食の駅新鮮屋
目隠しでお絵かき	子ども夢中企画
どんぐりを植えよう	NPO 法人地球の緑を守る会 chofu

わたあめを作ってみよう！	調布災害時ボランティアコーディネーターの会(調布 SVC)
木工マグネット・パウンドケーキ等 自主製品販売	ポコポコホッピング
3億円の重さ体験・税金のお話	武蔵府中法人会 青年部会
こども大工教室	建設ユニオン調布支部
ビーズで作ろうストラップ	あむあむサークル
51本のクリスマスツリーの1本を 飾ろう	51本のクリスマスツリー有志
オリジナル名刺作成	めじろ作業所
発電の仕組みとしおりづくり	東京電力(株)武蔵野支社
フラワーアレンジ作ってプレゼン ト	セラピーサークル マダムポアント
演奏会	調布市立第五中学校吹奏楽部 同 ボランティア部
ろうかで遊ぼう！！	ぼんた
ユニセフのビデオ上映	調布女性ヒューマニズム会議
消防体験	調布市消防団第4分団 / 調布消防署
出前講座・車いす体験コーナー	社会福祉法人調布市社会福祉協議会
和太鼓演奏	鼓友会
ニュースポーツを楽しもう	調布市体育指導委員会
スルーネットピンポン	さるすべり
作ってみよう木の笛、 竹玩具、草細工	調布の自然学習ボランティア
売店	富士見台小学校 開放運営委員会・PTA
クッキーで作るオーナメント	杉本悦子氏
江戸系あやつり人形にチャレン ジ！	アセファル
つくってあそぼ！	障害を負う人々・子どもたちと「共に歩む」ネットワーク

実行委員会開催状況

回数	実施日	会場	内容
第1回	4月12日	市民活動支援センター	開催概要及びそれまでの事前折衝経過説明、実行委員会役員選出、今後のスケジュール
第2回	5月27日	市民活動支援センター	関連団体協力依頼報告、実行委員会担当協議
第3回	7月6日	市民活動支援センター	関連団体協力依頼報告、実行委員会担当確認、予算案、当日参加PRチラシ作成（子供向け）と配布方法、その他広報手段、会場設営図の検討・設営、見積り発注
第4回	9月8日	市民活動支援センター	参加団体確認、会場設営について見積もり、チラシ、ポスター（案）印刷部数、配布方法の検討、予算案
第5回	10月6日	市民活動支援センター	校庭・教室の会場配置、予算案、チラシ案
第6回	10月28日	市民活動支援センター	参加ブース配置確認、設営備品発注確認各ブース事業予算、前日及び当日の設営、撤収スケジュール、開会セレモニー実施案、スタンプラリー及び景品配布について、昼食発注確認、当日までの準備スケジュールの確認
第7回	11月25日	市民活動支援センター	反省会

成果・反省点・課題

* 昨年度に比べ、参加団体が14団体増え、より幅広い分野の活動団体が交流することができた。また、学校側の理解はもちろんのこと、PTAや健全育成などの協力を得ることもできて、地域全体で取り組みをすすめたい、という目標の第一歩を踏み出すことができた。

天候に恵まれたこともあり、来場者は述べ1000人を記録し、大勢の子どもそして大人が楽しいひとときを過ごすとともに、あらためて「家族の絆」や「地域の絆」というものを見つめるきっかけにもなったのではないだろうか。

当日訪れた他校の校長から「来年度はぜひわが校で」という申し出もいただき、徐々にこの「子どもあそび博覧会」が信頼され期待されてきていると感じた。

しかし、この事業は単年度ごとに地域をかえておこなっていることもあり、これを機会に地域のつながりを継続的なものにできるかどうかという課題がある。

4 調布ボランティア連絡会の開催

調布ボランティアのつどい参加団体を中心に、団体間の情報交換や交流を目的に隔月に実施した。

1 1月23日には、調布市市庁舎前庭でプレボランティアのつどいを開催した。

(1) 開催状況 定例会5回、臨時会1回

開催期日	内 容
4月18日	ボランティアのつどい反省会、活動紹介、定例会の日程について
6月13日	今後の連絡会のあり方について
8月16日	情報交換、活動紹介
10月10日	プレボランティアのつどいについて、調布市総合防災訓練への参加について
12月12日	第26回調布ボランティアのつどい(平成18年度)について
1月16日	調布ボランティア連絡会臨時会を開催して、第26回調布ボランティアのつどい実行委員会(平成18年度)立ち上げを決定した。 以降、実行委員会に移行

(2) プレボランティアのつどい

調布ボランティア連絡会参加団体を中心に、活動資金の獲得を目的としてバザーを開催した。

開催日時	平成17年11月23日(水)午前9時~午後2時30分
会 場	調布市市庁舎前庭
内 容	バザー

参加団体 7団体

No	団 体 名
1	スペース・クッション
2	二葉学園
3	調布W A T
4	天使堂
5	ブレイブスの会
6	ひまわりグループ
7	調布の自然学習ボランティア

成果・反省点・課題

* 定期的に連絡会を開催することで、ボランティア・市民活動団体の顔がつながり、連携が深まっている。

7 北多摩南部ブロック(調布・府中・三鷹・小金井・狛江)ボランティア・市民活動センター共催事業の実施

他地区センターと事業共催することにより連携強化を図ると同時に、業務や経費を分担することで効率的に多彩な事業を展開することを目的として平成12年度から実施。狭義の福祉活動に特化せず、幅広い地域の課題に取り組むセンターに変えていくために、環境(平成14年度、15年度実施)や国際交流(平成12年度、13年度、16年度実施)情報や文化などの切り口で取り組んでいる。

今年度は、NPOのマネジメントに関する講座を実施した。

(1) 北多摩南部ブロックボランティア担当者連絡会開催状況

回数	日時	会場	参加者	内容
第1回	9月27日(火)	市民活動支援センター活動スペース「はばたき」	10人	各VCの報告と課題について、今年度の連携について
第2回	10月24日(月)	市民活動支援センター活動スペース「はばたき」	8人	共催事業「NPO マネジメント講座」について
第3回	11月22日(火)	市民活動支援センター活動スペース「はばたき」	6人	共催事業「NPO マネジメント講座」について

(2) NPO マネジメント講座(全4回)

第1回「なぜあの人、あの活動には支持が集まるのか？」 ～小泉さんからホワイトバンドまで幅広く検証する～」			
日時	12月11日(日) 午後1時30分～4時30分	会場	調布市市民プラザあくるす会議室1
参加者数	15人	参加費	2,000円
【テーマ】ミッション 市民から支持を得ている人や活動を検証して、そこから NPO にとって重要なミッションについて再確認する。 講師 / 青木 将幸 氏(公益・非営利支援センター東京、 国際青年環境 NGO・A SEED JAPAN 理事)			
第2回「なぜあの団体には人が集まるのか?～市民だからできる広報を考える!」			
日時	1月28日(土)午前10時30分～午後2時30分	会場	調布市市民プラザあくるす会議室1
参加者数	16人	参加費	2,000円
【テーマ】広報 団体の思いや活動を伝え、共感と参加を得るための「市民だからできる広報」について、様々な事例から学ぶ。 講師 / 吉田 理映子 氏(公益・非営利支援センター東京、			

市民活動情報センター・ハンズオン！埼玉副代表理事)

第3回「なぜあの団体の事務作業は的確なのか？

～ 団体の事務能力を高めるための考え方と手法～

日 時	2月19日(土) 午後1時30分～4時30分	会 場	調布市市民プラザあくるす会議室1
参加者数	13人	参加費	2,000円

【テーマ】事務

比較的規模が小さな団体を対象に、イベント準備や資料整理等事務作業の効率化について考察する。

講師 / 棟朝 千帆 氏(公益・非営利支援センター東京、

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所])

第4回「なぜあの団体の会議は活発なのか？～会議を上手に進める手法を学ぶ～」

日 時	3月19日(日) 午後1時30分～4時30分	会 場	調布市市民プラザあくるす会議室1
参加者数	20人	参加費	2,000円

【テーマ】会議

それぞれの団体が抱える会議の課題を解決して、「参加型会議」を目指すための手法を学ぶ。

講師 / 青木 将幸 氏(公益・非営利支援センター東京、

国際青年環境 NGO・A SEED JAPAN 理事)

成果・反省点・課題

- * NPOマネジメントに焦点を絞った講座で、公益・非営利支援センター東京の協力で実施した。共催にすることで、ブロック内他センターとの連携が深めることができ、また単独開催では厳しい経費や業務分担といった課題に効率的に対応することができた。
- * 他地域からの参加が多かった一方、共催5市からの参加者が伸び悩み、各センターの広報力に課題が残った。

8 みーちゃんの展覧会 Part

開催目的	市民活動支援センターのオープニング記念及び、アートの力を触媒とした、市民協働のネットワーク形成・バリアフリー社会を視野に入れた生涯学習。
開催期間	平成17年7月8日(金) から平成17年7月22日(金)
会 場	調布市市民プラザあくろす2階 市民活動支援センター
内 容	調布市内在住の油絵作家である田中瑞木氏の 1998 年以降の作品を中心に20点程の絵画を展示。
主 催	特定非営利活動法人 海から海へ
共 催	社会福祉法人調布市社会福祉協議会 市民活動支援センター
後 援	調布市

成果・反省点・課題

* 当センターがオープンして初めての大大々な展覧会であった。この展覧会は活動スペースははばたきの活用方法の可能性を探るのにとっても良い機会となった上、白い壁が華やかで迫力のある作品で埋め尽くされ、来場された方々の心を鷲掴みにしていた。しかし、来場者数があまり伸びず、展覧会開催のお知らせと共にセンター自体の効果的な周知方法について課題が残った。

9 スポーツカフェ “Stadtmitte” ～もっとドイツを知ろう！～

開催目的	市民活動を幅広く捉え、「サッカー (Football)」という世界共通語を用いて、より多くの方々に当センターを周知して頂くと共に、「2005/2006 日本におけるドイツ年」を記念し、ドイツ人とのふれあいの場を設け、市民レベルでの国際交流を行うことを目的とする。 尚、タイトルの Stadt(シュタット)はドイツ語で「まち」、Mitte(ミッテ)は「真ん中」を意味し、当センターに多くの方が集い、まちづくりの拠点となることを願って、名づけました。
日 時	8月17日(水) 午後5時30分～9時30分
会 場	市民活動支援センター 活動スペース はばたき
参加者数	来場者92名、ゲスト2名、ボランティア2名、スタッフ10名
内 容	トークショー テーマ「ドイツの国民性に見るサッカー文化について」 講師：ライナー・ブーツ氏(東京ドイツ文化センター教育広報部長) 糸川 麻里生氏(慶応大学文学部独文学専攻助教授) ビデオレター上映 加地亮選手(日本代表、FC 東京所属当時)のオリジナルビデオレターの上映。 おたのしみ 「2006FIFA ワールドカップ ドイツ大会アジア最終予選 日本 vs イラン」の上映。 その他 販売：ドイツ風サンドウィッチ、ドイツのノンアルコールビール 展示：FC 東京グッズ(選手サイン入りボール・スパイク・ユニフォーム、写真パネル) ドイツ平和村写真パネル、他多数。

協 力	FC 東京、東京ドイツ文化センター、調布市観光協会、調布 FM、182ch、J:COM、調布市サッカー協会、NPO 法人ちょうふどっとこむ、(株)アニー、Deutsch Cafe & Bar eins 1、FC 東京調布市民の会
後 援	調布市、調布市国際交流協会、調布市体育協会、ドイツ大使館、ドイツ観光局
主 催	社会福祉法人調布市社会福祉協議会 市民活動支援センター

成果・反省点・課題

- * 2005/2006 は「日本におけるドイツ年」と称し、日独の友好関係のより一層の強化を目的としており、今回のイベントはその原点である市民間での交流を第一の目的として行った。ドイツとの距離を縮めるべく、ドイツに精通されている日本人とドイツ人との対談を行い、日本サッカーの歴史に深く関与していたこと、ドイツにおける地域でのスポーツ事情など丁寧で分かりやすい説明をしていただいた。その他、子どもたちとキッカーテーブルを通しての交流の機会もあり、参加した子どもたちにとって、短い時間ではあったが、国際交流の意味を肌で感じ取ってもらえてのではないかと思う。
- * また、当日は平日開催にもかかわらず、100名もの来場者があったが、特に暴動などの混乱もなく、和やかだが、熱い思いが感じられる雰囲気となった。反省点としては、来場者の見込みが立ちにくく、用意する食材の量を把握できず、余らせる結果となったことや対象者を絞りきれず、講師の方がどの年代をメインターゲットとして話せばよいのか、わからない、といった問題が生じてしまった。

10 楽しく運動・健康づくり講習会の開催

一人ひとりが健康で生きいきと生活できるようサポートすることも市民活動支援センターの役割のひとつであるという考え方から、介護予防を目的とした簡単な体操教室を開催した。介護保険制度が18年度に改正されることを見込み、保険サービスの範囲で介護予防講座を受けた後、地域の中で継続していく受け皿づくりができるか、インフォーマルサポートとして介護予防の取り組みが可能かなどの検証も含め、市内企業の協力を得て実施した。

開催日時	第1期	9月7日～10月26日 毎週水曜日（全8回） 午前10時～11時30分 初回および最終回に血液検査による効果測定（協力：株式会社リージャー）	
	第2期	12月7日～1月25日 毎週水曜日（全8回） 午前10～11時30分 初回および最終回に体力測定による効果測定	
対象	市内在住、65歳以上で自力歩行が可能でグループ形式の受講に参加可能な人		
定員	各期 20名		
費用	第1期	3,000円(血液検査、保険料含む)	
	第2期	2,000円(保険料含む)	
講師	健康運動指導士・介護予防運動指導士 高橋 亮司 氏		
	健康運動指導士 小山 綾子氏		
協力	金子スポーツ振興株式会社		

成果・反省点・課題

- * 当初から2ヶ月の講習が終了したあと、参加者が健康を維持するための運動を日常生活の中で継続していくことができるか、個人でムリならばグループ活動を自主的に続けていくためにどのようなサポートが必要か、という点が検討事項になっていた。第1期を進めていく中で、個々人がそれぞれの日常生活の中で体操を継続していくのはむづかしい、グループ活動にしても、指導者不在では続かない、ということが感じられた。そこで、会費徴収、会場確保、会員間の連絡調整などを担う幹事役を決め、自主サークルを立ち上げる、そこに指導者を招くという形で継続的活動を試みってみることになった。
- * 第2期の参加者も、第1期終了時に発足した自主サークルさくら会に参加。15名程度で活動している。場所の確保、指導者の確保など、希望者があまりにも多くなった場合の対応は難しいが、保険サービスではなく、地域でどのようなサポートができるか来年度も介護現場の動向を踏まえながらひきつづき考えていきたい。

11 パワーヨガ体験講座の開催

はばたきの活用可能性の検討とともに、日ごろセンター利用が少ない若い世代の市民にセンターを知ってもらおうきっかけとして、パワーヨガ体験講座を開催した。

また、新しい話題、テーマの発信あるいはライフスタイルを提案するような取り組み、があってもいいのではないかと、今年度「LOHAS」に注目していたこともあり、LOHAS なスポーツとしても人気の高いヨガをとりあげた。

開催日時	9月7日～9月28日 毎週水曜日 午前11時30分～12時30分
対 象	市内在住、在勤、在学 18歳以上
定 員	20名
費 用	2,000円(保険料含む)
講 師	スポーツプレックス認定パワーヨガインストラクター 窪田 美由紀 氏

成果・反省点・課題

- * 市報のみの広報だったが、掲載と同時に申込が殺到し、2日ほどで定員となった。参加者層は20～30代の女性が中心で、このようなテーマに関心が高いことがわかった。
- * 定員を増やして収益事業として実施すると多少利益がでるが、もともとはばたきの活用目的からしても継続的に実施するのはそぐわないと考える。

6 ボランティア・NPO・市民活動コーディネート

総経費額 0 円

1 相談対応、ボランティア・市民活動支援

相談対応、活動支援、活動紹介等コーディネート機能を強化し、市民の主体的な活動を支援した。

ボランティア団体及びボランティア登録状況

拠 点	登録団体		個 人
	団体数	構成メンバー数	
小島町コーナー	108団体	4,744人	324人
菊野台コーナー	22団体	2,755人	8人
富士見コーナー	10団体	135人	60人
染地コーナー	16団体	300人	29人
緑ヶ丘コーナー	6団体	90人	45人
合 計	162団体	8,024人	466人

相談業務及びコーディネート事業

拠点	相談件数	ニーズ受付件数		対応件数	対応人数
		個 人	団 体		
小島町コーナー	1,209件	個人	834件	695件	834人
		団体	191件		
菊野台コーナー	98件	個人	42件	38件	59人
		団体			
富士見コーナー	43件	個人	32件	28件	36人
		団体			
染地コーナー	101件	個人	46件	23件	101人
		団体			
緑ヶ丘コーナー	37件	個人	25件	22件	25人
		団体	12件		
合 計	1,488件	1,182件		988件	1,506人

成果・反省点・課題

- * 保育、児童の送迎など継続的、日常的にサポートが必要なボランティアニーズが急増し、(小島町コーナー前年比 約1.5倍のニーズ受付件数)コーディネートに苦勞した。かなりのニーズには応えることができたものの、人材育成、地域への働きかけ、関係機関との連携など課題が積み残しとなった。

2 困難な課題を抱える女性のためのIT講座の運営協力

DV被害や幼児期の虐待体験、外国籍や母子家庭など、さまざまな困難な課題を抱えている女性を対象にパソコンの基礎技術を指導し、社会参加と自立への支援を行う、企業人ボランティアグループの活動支援をおこなった。

主催：東京ボランティア・市民活動支援センター、協力：IT ボランティアネットワーク

IT 講座

開催日時	第一期	9月11日, 9月18日, 9月25日, 10月2日, 10月9日, 10月16日, 10月23日10月30日(全8回) 午前10～12時 午後1～3時
	第二期	11月13日, 11月20日, 11月27日, 12月4日, 12月11日, 12月18日 1月15日, 1月22日(全8回) 午前10～12時 午後1～3時 午後4～6時
	第三期	2月12日, 2月19日, 2月26日, 3月5日, 3月12日, 3月19日, 3月26日 (全7回) 午前10～12時 午後1～3時
会場		市民活動支援センター はばたき
内容	初心者コース	入力できない人を対象にPCのしくみ、入力、インターネットの習得
	基礎コース	入力できる人を対象にワードとエクセルの基礎
	応用コース	就労している人を対象にワードとエクセルの応用
参加者数		講座参加者延べ70名(各コース10名) 指導・環境ボランティア25名 保育ボランティア15名

ITカフェ・秋

開催目的	困難な課題を抱えた女性たちの就労支援と元気回復を目的として開催。
開催日時	10月15日(土) 午前10～午後5時
会場	市民活動支援センター はばたき
内容	パソコン体験コーナー、メイクアップ講座、個別就労相談、子ども服のプレゼント 保育・遊びコーナー、お菓子作りコーナー
参加者数	70名 指導・保育ボランティア40名
協力	マイクロソフト、資生堂、ITボランティアネットワーク

成果・反省点・課題

- * 参加者の中には1コースが終了すると次のコースに参加し、継続して習得する女性も多く、就労意欲や自立へ向けての支援が温かい雰囲気で行われていた。特に保育が整って安全・安心に配慮した状況で受講できることやボランティアの協力体制は参加者を支える大きな力となった。
- * センターの関わり方としては市内施設・ハローワークとの連携、ボランティア募集やハード面の支援だけでなく、もう一步踏み込んで講座への直接協力、ITカフェの企画協力などを検討したい。

7 人材育成, 学習支援

総経費額 757,364 円

市補助金 自主財源

1 出前ボランティア講座の実施

小・中高等学校ですすめられている「総合的な学習の時間」に対応した。

出前回数	51回	出前先	市立小学校	36回
受講生	延べ4,424人		私立小学校	1回
派遣スタッフ	延べ233人		市立中学校	3回
			私立中学校	4回
			都立高校	2回
			私立高校	2回
			その他	3回
開催講座数	125講座・・・手話41講座・視覚障害者ガイド26講座・点字28講座 車いす28講座・その他2講座			

福祉まつりにて体験コーナーを実施した。

開催日	平成17年12月4日(土) 午前10時～午後3時
会場	調布駅南口広場・調布市グリーンホール
協力スタッフ	車椅子 4人、手話 8人、点字 6人、アイマスク 4人
来場者数	346人

2 児童・生徒のボランティア活動普及事業協力校の指定及び助成

福祉教育の一環として、児童・生徒に対するボランティア活動の普及を図るため、ボランティア活動普及事業協力校を指定し助成を行った。

指定校 15校 (小学校 11校、中学校 2校、高等学校 2校)

助成金額 1校あたり 30,000円

3 調布サマーボランティア'05

青少年(概ね15歳~30歳)を対象に、夏休み期間を利用したボランティア活動体験を実施した。活動体験の受け入れ先は、市内および都内の福祉施設、社会教育施設や市民活動団体など。東京ボランティア・市民活動センターとの共催により、都内他地区ボランティア・市民活動センターとも連携し、幅広い地域から訪れる活動体験希望者と受け入れ先との調整をおこなった。

受け入れ団体施設	61団体 66プログラム	内 訳			
		・高齢者関係	22団体 22プログラム		
		高 齢 者 施 設	1 1 団 体		
		老 人 ク ラ ブ	2 団 体		
		ボ ラ ン テ ィ ア G	3 団 体		
		社 協 関 係 団 体	6 団 体		
		・障害者(児)施設	21団体 33プログラム		
		障 害 者 施 設	1 3 団 体		
		障 害 児 施 設	5 団 体		
		ボ ラ ン テ ィ ア G	3 団 体		
		・児童関係	9団体 14プログラム		
		児 童 養 護 施 設	0 団 体		
		児 童 館 ・ 学 童 ク ラ ブ	4 団 体		
		保 育 園	5 団 体		
・海外協力	2団体 2プログラム				
・環境関係	3団体 4プログラム				
・その他の団体	0団体 0プログラム				
	図書館	1 館			
	市役所	0 課			
	ボランティア・市民活動団体	2団体			
参加者人数および活動先別人数内訳	参加者数	118人(男性36人 女性82人)			
	年齢層内訳	小学生	3 人	中学生	4 5 人
		高校生	5 2 人	大学生	6 人
		専門学校生	3 人	社会人	8 人
				その他	1 人
	活動先別内訳	高 齢 者 関 係	3 8 人		
		障 害 者 (児) 関 係	1 9 人		
児 童 関 係		4 1 人			
医 療 関 係		1 人			
環 境 関 係		6 人			
そ の 他	1 8 人				

オリエンテーション	開催日時	平成17年 7月 16日(土) 午後1時30分～午後3時30分
	内 容	・活動を始めるにあたっての諸注意 ・活動先施設(団体)紹介 ・活動先別オリエンテーション
	参加人数	・活動者 48人 ・活動先施設担当者 2人
交流会	開催日時	平成17年 8月27日(土) 午後1時30分～午後3時
	内 容	・活動報告会 ・ビンゴゲーム ・グループ懇談会
	参加人数	・活動者 4人 ・活動先施設担当者 14人

成果・反省点・課題

- * 活動先として例年希望の多い保育関係の受け入れの開拓に努めた。
その結果、保育園2箇所の協力を得ることができた。
これにより将来、保育士を目指す学生達にとって有意義な体験の場の提供ができた。
また「総合的な学習の時間」の導入とともに、夏休みの課題として参加する中学生や高校生が増加している。
自発的参加でないために、参加意識や意欲の低さが目立つようになってきている。今後の取り組みとして、参加者一人一人のオリエンテーションの時間を大切にボランティアに対しての「心構え」や「意識付け」ができるよう努力したい。

4 ボランティア入門講座「はじめの一步」

はじめてボランティア・市民活動に参加する方やボランティア・市民活動について知りたいという方を対象に、ボランティア入門講座「はじめの一步」を各ランチで開催した。

拠 点	開催日	参加者数	スタッフ
菊野台コーナー	平成17年 7月23日(土)	2人	2人
	平成18年 2月28日(火)	0人	1人
富士見コーナー	平成17年10月25日(火)	3人	1人
	平成18年 3月28日(火)	0人	1人
染地コーナー	平成17年 9月29日(木)	3人	2人
	平成18年 1月28日(土)	0人	1人
緑ヶ丘コーナー	平成17年12月13日(火)	4人	4人
野ヶ谷の郷	平成17年 6月26日(日)	9人	1人 野ヶ谷の郷運営スタッフを対象 に外部講師を招いて実施(再掲)

成果・反省点・課題

- * 毎月どこかのコーナーで気軽に参加できる入門講座ができるように、ということで各ランチ(小島町のぞく)持ち回りで実施。しかし17年度は実施できなかった月もあり、8回にとどまってしまった。
- * この数年、徐々に参加人数が伸び悩みの状態が続いているが、今年度は特に少なく、参加者0というケースが数回あった。内容、実施日(曜日、時間帯など)等含めて今後検討が必要である。ちなみに昨年度の年間受講者数は38名、今年度は23名(野ヶ谷の郷のぞく)。

5 小・中学生ボランティア講座 (菊野台コーナー)

小学校4年生から中校生までを対象に、ボランティア活動についての学習と体験の場として毎月1回行う。人とのふれあいや様々な体験をとおして、ボランティア活動や共に地域で支えあいながら暮らしていくことの意義について考えていく。

開催日	内 容	参加者数	スタッフ・協力者
平成17年 9月17日(土)	点字で名刺を作ってみよう!	5人	菊野台点字サークル
平成17年10月22日(土)	車イスで、地域のバリアを探してみよう!	7人	2人
平成17年11月26日(土)	わりばしりサイクル体験! 捨てればゴミ、回収すれば資源!	4人	わりばしりサイクルグループ「くるりん」
平成17年12月17日(土)	視覚障害者のガイド体験と自然活動体験!	5人	「ねこじゃらし」他
平成18年 1月28日(土)	日本語で外国人と国際交流をしよう!	6人	調布日本語ボランティアの会
平成18年 2月18日(土)	使用済み切手を整理してみよう! / 全体交流会	5人	すたんぷ菊野台

6 こどもたちの手話教室 (富士見コーナー)

開 催 目 的	子どもたちから耳の不自由な人とふれあい、手話になじむ。活動発表を通して地域のお年寄りやおとなとの交流を深めた。
日 時	平成17年4月から18年3月までの第2第4土曜日(3期休暇期間のぞく) 午前10時から午前11時半
会 場	富士見地域福祉センター
参 加 者	19名(延べ153名)
指 導 者	伊東隆太氏、長里尚子氏

7 ふれあいと自立のためのシニア男性料理教室（染地コーナー）

開催目的	退職したシニア男性の仲間づくりと地域社会への参加のきっかけづくりを目的として料理教室及び包丁とぎ教室を開催した。	
開催日と献立	平成17年10月15日、22日(土) 平成17年10月25日(火) 平成17年11月1日(火) 平成17年11月8日(日)	砥石と刃物のメンテナンス。自分で砥いでみよう メニュー 野菜料理の基本 肉料理の基本 魚料理の基本
会場	染地地域福祉センター	
参加費	一人500円(包丁とぎ) ・3回分材料費 2,000円(料理作りの基礎)	
参加者	60歳以上の男性 7人 (包丁とぎ)・5人(料理づくりの基礎)	
講師	千葉 登氏 (包丁とぎボランティア) 荒井 由紀美氏 (栄養士)	

8 仲間づくりと自立のための男の料理塾（緑ヶ丘コーナー）

開催目的	定年後の男性の食の自立と仲間づくり、地域社会への参加を促すことを目的として開催する。	
開催日と献立	平成17年4月19日(火)	(前年度事業)本格パエリア、グリーンサラダ、オニオンスープ
	平成17年11月22日(火)	肉をメインにした料理
	平成17年12月20日(火)	魚をメインにした料理
	平成18年1月17日(火)	お米を使った料理
会場	緑ヶ丘地域福祉センター	
参加者	60歳以上の男性 8人	
講師	野瀬 るり子氏	

9 親子デジカメ講習会

働き盛りの30代、40代の男性が市民活動に関心を持ち、参加するきっかけづくりを目的として企画。この講習会から、センターとのつながりができ、撮影ボランティアなどの形で市民活動への参加を促すのがねらい。

日時	10月30日(日)午前9時～午後1時
対象	18歳以上、子どもの同伴参加可、大人一人での参加可
参加者	2組4名(お父さんと男の子、お母さんと女の子)
講師	フリーカメラマン 大川 美智代 氏
協力	調布の自然学習ボランティア
内容	写真撮影講習会(45分 はばたきにて) 自然観察、撮影会(国領～野川～佐須) 約1時間50分 懇親会(自然広場)

成果・反省点・課題

- * 定員30名のところ2組4名しか集まらず、集客面からすると失敗であった。
- * 『日曜日の午前中』『親子で参加できる』『デジカメの技術が学べる』『懇親会でビールが飲める』という若い世代のお父さんをよびこむしかけを盛り込み、同時にこのような内容であればお父さんの参加をお母さんが後押ししてくれるのではないか？という読みがあったが、参加者が伸びなかった。要因として考えられるのはPR。近隣高層住宅へのポスティング、タウン誌への掲載などメインターゲットの世代に届くような努力はおこなったが、市報掲載に間に合わなかったことが響いたのか？
- * 30代、40代の男性の地域活動への参加、市民活動への参加を進めるのは難しいと改めて感じた。しかし、来年度もさまざまな形で幅広い世代の人が地域とつながるきっかけづくりの機会を提案していきたい。

8 その他

総経費額 120,000 円

自主財源・市委託金

1 他団体会議・講座等への委員、講師など職員派遣

日程・期間	会議・講座名称	主催団体
5月～通年	コーディネーター研修企画委員会	東京ボランティア・市民活動センター
5月20日	第1回卒後を考える研修会～調布市の障害児者セーフティーネットワークについて考える・防災編～	調布市心身障害児(者)親の会
6月～通年	市民社会をつくるボランタリーフォーラム実行委員会	東京ボランティア・市民活動センター
7月28日	新任コーディネーター研修	東京ボランティア・市民活動センター
9月24日	武者小路実篤記念館ボランティア講座	武者小路実篤記念館
10月26日	調布市地域福祉推進会議	調布市
2月13日	精神障害者家族会かささぎ会勉強会 ～ボランティアができる精神障害者支援～	精神障害者家族会かささぎ会

2 共催・協力事業

実施日	事業名	来場者数	会場	主催団体
5月8日	コクティまつり	1,000人	コクティ	コクティ管理組合
7月10日	市制50周年記念事業インターナショナルフェスティバル	1,000人	はばたきおよび国領駅前ロータリー	調布市国際交流協会
7月14～23日	みーちゃんの展覧会 Part (再掲)	500人	はばたき	NPO 法人海から海へ
7月13日～8月10日	第1期市民団体向け IT 講座・全5回(再掲)	15人	はばたき	やあやあネットワーク
7月17日	生きいきワクワク親子の集い	264人	はばたき・ホール・調理室など	NPO 法人全国教育ボランティアの会
8月30日～9月27日	第2期市民団体向け IT 講座・全5回(再掲)	10人	はばたき	やあやあネットワーク
10月5日～11月2日	第3期市民団体向け IT 講座・全5回(再掲)	10人	はばたき	やあやあネットワーク
9月～3月	困難な課題を抱える女性の	70人	はばたき	東京ボランティア・市民活

毎週日曜日	ための IT 講座 (再掲)			勤センター
10月15日	IT カフェ・秋	70人	はばたき	東京ボランティア・市民活動センター
10月22日	生涯学習と市民活動の交流 ひろば～学びと活動のコラボ レーション～ (再掲)	60人	はばたき	調布市生涯学習情報コーナー
11月5日	やあやあドリームオールスターズ こどもあそび博覧会 (再掲)	1,000人	富士見台小学校	やあやあネットワーク、武蔵府中法人会
11月23日	市制 50 周年記念事業 「翔べ調布」調布すき・きらい 大研究	50人	はばたき	NPO 法人調布まちづくりの会・相互塾、調布市共催
12月11日～ 25日	市制 50 周年記念市民提案 事業「51 本のクリスマスツリー」		市役所前 広場	51 本のクリスマスツリー実行委員会、調布市
2月10～ 12日	市民社会をつくるボランティア フォーラム	1,500人	飯田橋セントラルプラザ他	東京ボランティア・市民活動センター
2月25日	生涯学習・市民活動見本市 「好きなことを好きなだけ」 (再掲)	100人	はばたき	調布市生涯学習情報コーナー
3月5日	市制 50 周年記念事業 地域交流会	200人	たづくり 大会議場	地域交流会実行委員会、調布市

3 視察対応

他地域からのセンター見学および研修依頼に随時対応した。

日程	団体名等
6月7日	三鷹市議会議員 数名
7月26日	JICA 青年招聘事業(財団法人ユースワーカー能力開発協会実施)によるベトナム青年 30名
8月17日	志木市市民委員会 20名
10月6日	東海市職員 5名
11月1日	上野原市職員 数名
2月8日	東村山市社会福祉協議会
2月9日	町田市ボランティアセンター運営委員会 20名
3月1日	町田市ボランティア連絡協議会 50名

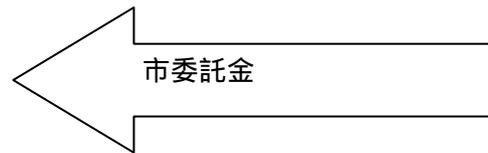
4 職員研修

レベルアップを図るためそれぞれの経験年数、職務に応じた研修に参加した。

会議・講座名称	参加人数	主催団体
NPO 支援センター初任者研修会	2名	日本 NPO センター
研修企画のつくりかた	2名	公益非営利支援センター東京
新任コーディネーター研修(連続)	3名	東京ボランティア・市民活動センター
コーディネーター基礎研修2005	1名	日本ボランティアコーディネーター協会
災害時ボランティアセンターの運営	1名	東京ボランティア・市民活動センター
コーディネーター専門研修	2名	東京ボランティア・市民活動センター

9 高齢者の社会参加のしくみづくり(高齢福祉課より受託)

総経費額 703,930 円



平成 15 年度の高齢者の社会参加のしくみづくり運営協議会のなかで検討した結果、市民(特にシニア)が社会参加をするきっかけ・機会の提供としての情報発信が不足しているのではないかと、また、「活動したい」という市民から相談を受けた時、各関係機関の窓口に必要なデータが整理されておらず、相談者をたらいまわしにしてしまうことも多々ある、という課題がみえてきた。

そのため、その課題を解消するためのひとつの手段として、インターネットの活用に重点をおきしくみづくりに向けた検討をおこなってきた。

初年度はまず、情報発信、収集の核となるホームページを開設し、その情報を有効活用するためにセンター(総合福祉センター内)および市内ブランチに端末を設置(2ヶ所)した。

その後 16 年度、17 年度では継続して、データベースに蓄積する情報量を増やし、幅を広げること、検索機能を追加し、目的の情報を探しやすくする、などの工夫を重ねた。この作業の過程で、シニアがメインターゲットだとしてもシニアに限定した情報のみではホームページの魅力も少なく、活動促進にもつながりにくいのではないかと必要以上にシニアを意識しすぎないページづくりにつとめた。

17 年 2 月には、市民活動支援センター開設に伴い、センターホームページを作成することとなり、本事業で作成したホームページ「chofu-with」に蓄積された情報、プログラムを生かし、chofu-with をリニューアルする形で新ページを作成した。

17 年度は、ホームページのメンテナンス、検索システムの機能強化、また団体情報以外のコンテンツの充実を図った。市内の NPO 法人ちょうふどっとこむをはじめ図書館や他地域の NPO センターサイトなどとのリンクを充実させ、情報量の増加につとめた。

データベースに登録している活動団体数は老人クラブをはじめ、各種サークル、ボランティアグループ、NPO 法人など約 200 団体、ページへのアクセス件数は約 35,000 件。

活動内容や、活動地域からも検索できるため、地域社会との関わりの一歩をふみだすきっかけを提供できている。同時に、家族や相談を受けた関係機関窓口でもこのデータベースを活用し、高齢者の社会参加を促すことが可能になっている。